

私たちの研究室では毎年、川上村木匠塾に参加している。  
2015年度は川上村の役場前モニュメントを担当した。

川上村は豊かな水源地域である。

日本最古の人工林や、村の地形を模るダムは本文化の象徴であり、村の顔となるモニュメントはそうした水文化を伝えるデザインにしたいと考えた。製材を積み上げ、繋げることで水の流線型を表現し、2つの流線型を組み合わせることで水脈と水脈のふつかり合いを表現している。また川が大きくなる過程での小さな川との融合は、上層河川に見られる風景であり、それは川上の水の特徴でもある。材が異なる角度に振れることで隙間が生まれ、水の透明感や水が詰まってくる様子やダムからのあふれ出る水の力強さを表現している。



5 サマースクール

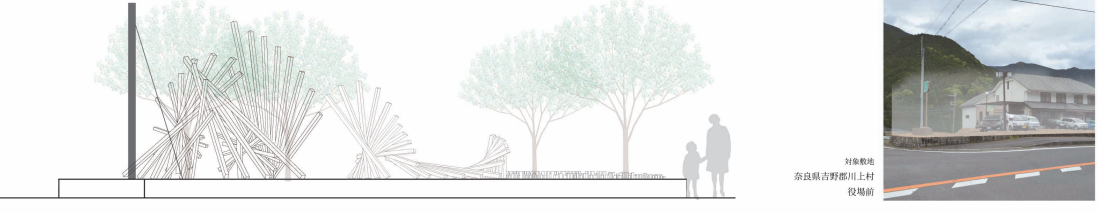
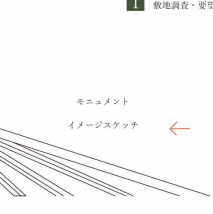
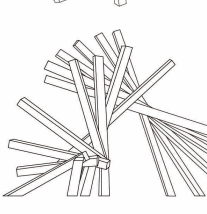
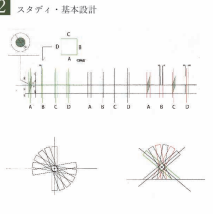
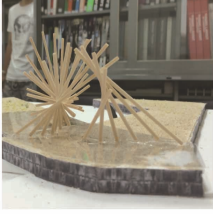
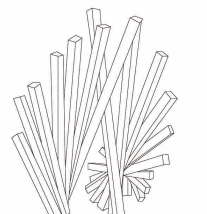
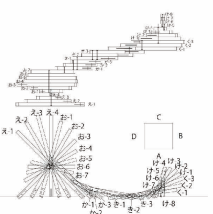
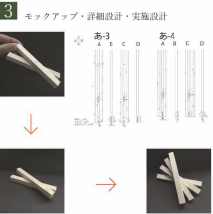
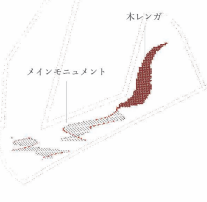
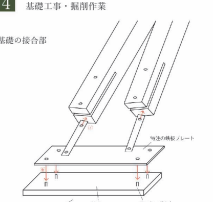
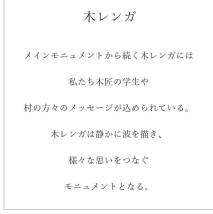
作業日程

Work1 基礎  
トランシットを用いて位置出しを行い、アンカーボルトを埋め込む。村の方の協力を得て、型枠にコンクリートを流し込んでいく。

Work2 プレート設置 材加工  
あらかじめ、モックアップで作っていた基礎プレートをアンカーボルトの位置と向きを確認していく。それと同時進行で木材の加工を行う。型枠通りに切り出しを行い、ボール盤・ドリルで穴あけを施す。

Work3 材・金具 足元加工  
予定された基礎プレートに木材の角のように見光を加工していく。足元はプレートが振れまわらぬように隙の穴をあけていく。木材と木材の接合部にはインディアンプレートを設置し、両側方から固定を図る。

Work4 組立 防雨材  
全体を組み立てていく。基礎プレートと木材を締め付けの固定し、木材と木材も固定していく。固定された材料から、グランドシートを敷き張り、サンダーで仕上げをしたら防雨膜を張っていく。ポットも貼っていくので、錆び止めを塗っていく。



対象地  
奈良県吉野郡川上村  
役場前